

【 クリの施肥の基本 】

クリの根は深く張りますから、土層の深くまで通気性がよく、肥沃な土壌で、菌根がよく着くことが大事です。

またチッソ肥料が急に効き、急激に肥切れするような 波のある施肥では、樹勢が衰え、生理落果・胴枯も増えます。肥効（土壌EC）は常に一定の範囲で持続させ、樹勢を維持しなければなりません。このために《**ラクトパチルス**》を投入します。

【 土壌pHとカルシウムの使い分け 】

クリは比較的、好酸性作物で、好適土壌pH=5.5(～6.0)ですが、土壌pHが5.0以下になると 根の働きが弱くなり、樹勢が衰え、実タンソ病も増える傾向があります。実際にクリ園ではかなり酸性化している土壌が多いので、必ず土壌pHを測定し、低pHの場合は適量の《**畑のカルシウム**》を施してください。

現在の土壌pHに特に問題がない場合は、カルテック栽培で《**カルテックCa・粒状**》を施用し続ければpHは5.5程度に安定します。逆に土壌pHが6.0以上(特に6.5以上)の場合に、土に有機物が不足すると、胴枯病が多発します。もし高pH土壌の場合は、《カルテックCa・粒状》を増施してください。

なお、カルシウムは土壌酸性の中和だけでなく、栄養分として常に供給しなければなりません。毎年2回(以上)、肥料とともに施用してください。特にクリの果実には、カルシウムが大量に必要ですのでカルシウムを必ず施してください。

1. 秋肥（礼肥）……早生・中生種では収穫直後、晩生種では収穫直前（地温低下前）

[樹勢回復・貯蔵養分の蓄積・春の芽と雌花の着生、充実をはかる]

- 硫安20kg
 - **カルテックCa・粒状**（または **畑のカルシウム**） 20kg
- <チェック> とくに樹勢が弱った時は、収穫直後に**濃縮酵素液**2～5リットルを灌水します。

2. 元肥（春肥）……11月下旬～、または1月下旬～3月上旬（なるべく秋の内の施用をお勧めします）

[新梢とキュウ果肥大の養分供給]

- 堆厩肥・有機物 500kg以上（なるべく多く）
または米ヌカ100kg以上
- ラクトパチルス** 600グラム [必須]
- 肥料
硫安40kg
硫酸カリ20kg
※ただし牛糞・鶏糞などの厩肥を使う場合は、その成分によって肥料を減らします。
- カルテックCa・粒状**（または **畑のカルシウム**） 20kg

3. 実肥（夏肥）……6月下旬～7月上旬

[樹勢維持・果実の品質向上と健全な肥大・雄花分化のために]

- 硫安20kg
- カルテックCa・粒状**（または **畑のカルシウム**） 30kg [必須]

※（目標収量400kg、10年生樹）年間施肥量 N=16kg

チッソを与える時には **カルシウム**を同時に併用すると、確実に健康な樹勢を維持できます。

クリの果肉はカルシウム含量が多いほど品質が向上します。実肥には必ずカルシウムを効かせます。

< 葉面散布 >

濃縮酵素液 500倍 ……（とくに5月＝新葉展開後と、8月＝果実肥大期に 半月ごと2回以上）
葉を健全に展開させ、落果を少なくし、樹勢を強めます。

カルテックCa液状 500倍 ……（とくに6月＝開花半月前と、7月＝梅雨期に 半月ごと2回以上）
葉に厚みをつけ、果実の成熟を促進します。ウドンコ対策にも。